

国指定重要文化財 旧野崎家住宅

登録博物館
野崎家塩業歴史館
岡山県指定史跡
野崎家旧宅



沿革

野崎家は製塩業と新田開発で財を成した野崎武左衛門がその気宇に合わせ、天保から嘉永年間に次々に築いていった民家です。

敷地面積約三〇〇〇坪・建物延床面積一〇〇〇坪近くあります。長屋門を入ると、濃い緑を背景とした本瓦葺の主屋群が軒を連ねて美しく、これに並んで威風堂々と軒を連ねる土蔵群があります。

中門を入ると表書院の前庭となりますが、庭園は枯山水で、児島の豊富な石材を生かして石組に幽玄の風情を表現しています。庭には各種の常緑樹が林立し、茶室を

結ぶ露地の傍には三尊石や陰陽石が点在し、設立者の美意識が遺憾なく発揮されています。

総じて、建物と庭園がこれほど創建のままに保存されているところは稀であり、山陽道の代表的民家と言えるでしょう。

昭和五二年に岡山県指定史跡となり、平成七年に博物館登録され、平成一八年に国の重要文化財（建造物）に指定されました。平成二三年に岡山県の博物館として初の公益財団法人に認定されました。

文政一二年（一八二九）以来、

一貫して瀬戸内の海水から塩づくりを続けています。



国登録有形文化財 野崎の記念碑

野崎家からジーンズストリートを通って南西約五〇〇mに明治二七年（一八九四）に建てられたオペリスクを含む小庭園があります。その中央に見事な石造大尖塔が一基と、青空に向かってそびえる一本のピロー樹があり、地域の人びとから「野崎の記念碑」と呼ばれています。



倉敷市指定重要文化財 旧野崎浜灯明台

旧野崎浜灯明台は文久三年（一八六三）に、現在のJR児島駅の東側、かつての野崎浜塩田の味野浜と赤崎浜の境にあつた潮入川の河口、野崎家の浜店前の船だまり前に建てられました。灯明台の北側にある塩竈神社の御神灯を主な目的として、また野崎浜を出入する船や、近くを航行する船に灯台の役目を果たすために建てられました。



アクセス

JR 児島駅から徒歩 25 分、
児島インターチェンジから車で 10 分です。

【公開時間】
9:00～16:30(閉門 17:00)

【休館日】
毎週月曜日(但し、祝祭日の時は翌日)
年末年始(12月25日～1月1日)

【入館料】
大人 500 円 小中学生 300 円
団体割引 30 名様以上 2 割引

【駐車場】
無料(普通車 36 台・バス 5 台)

※小中学生および高校生は、毎週土曜日、日曜日、祝日は無料です。

※小中学生および高校生が授業の一環として利用する場合は入館料は無料です。

※障害者手帳を持参の方は、入館料が 2 割引になります。(本人と付添者 1 名)

※割引の併用はできません。

※お願い 団体でお越しの節はご予約下さい。

※塩づくり体験(要予約)

公益財団法人竜王会館は、平成 23 年 4 月に公益財団法人へ移行しました。この認定によって当財団に寄附された個人や法人の皆様は所得税法や法人税法上の優遇が受けられるようになりましたので、当財団までお気軽にお問い合わせ下さい。

〒711-0913 岡山県倉敷市児島味野 1 丁目 11 番 19 号

電話 (086)472-2001 FAX (086)472-2636

E-mail nozakike@mx2.kct.ne.jp ホームページ <http://www.nozakike.or.jp>

御成門・長屋門

御 成門は貴賓の出入口で表玄関から表書院へと通じており、通常は閉ざされています。

長屋門の石垣は、鉢巻積の工法によるもので、七段の石垣を上ると右に桃座敷、左に南座敷があります。

このような門造りは、江戸時代の大庄屋建築のなかでも特に壮麗であり、天保九年（一八三八）に竣工しています。



長屋門

庭園

野崎家の庭園は、江戸末期にできた枯山水の庭園であり、南東の隅には築山を設けて三尊石を立て陰陽思想を表現しています。

庭には、黒松・木斛・楓・槇・杉・山桃・姥女櫨などが植えられ四季の移ろいを楽しませてくれます。特に、さつきの萌え出る晩春ともなれば庭の生命が躍動し、訪れる人の目を楽しませてくれます。



庭園

また石組は大・中・小のリズムをもって配列され庭の格調を高めています。武左衛門が最初に築いた野崎浜塩田によく似ているお駕籠石が表書院の前庭に配されています。

表書院

表書院は、野崎家の中心となる建物で、貴賓の応接にあてられたものです。嘉永四年（一八五二）一月から嘉永五年六月までの一年半をかけて竣工しました。

上の間・下の間・茶室等から成り、上の間は二畳半で正面に、一畳半の畳床と一間の違棚として一間の付書院があります。下の間は一五畳で一畳半の床があります。上の間と下の間の境にある欄間は黒の縁取りをした意匠で、室内を清楚な感じに保っています。また上の間・下の間の外側には幅一間の畳敷の広縁を廻し、さらに広縁の外側には、幅二尺五寸の濡れ縁をつけています。

表書院は四方に一間の庇をつけ、長さ一〇間の虹梁は地松、雨戸の袋戸には屋久杉、庇の垂木には北山杉を用いています。それ以外の主材は梅でできています。縁先の手水場に、水琴窟があります。心落ち着く琴に似た音色をお楽しみください。



中座敷

野 崎家が往まいの中心とした主屋は天保四年（一八三三）頃の建築であり、中座敷から向座敷まで二三間（四二m）、九つの座敷が連続しています。



中座敷

草庵茶室

庭 内には、観曙亭・容膝亭・臨池亭の三席の茶室があります。観曙亭は、庭の築山にある一畳台目の茶室で、杉材を用いて建てられています。天保四年八月二三日、ここで月見の宴を催した記録があります。

容膝亭は、裏千家の名席『又隠』を写したもので、細部まで正しく模してはいますが、開口の位置を変えています。

容膝亭から露地を伝って臨池亭に至る途中に塩釜明神があり、その隣の大池に注いでいます。石は島若は池を象徴します。その池の傍にありますが臨池亭ではありません。

これらの三席は、その頃野崎家への出入りのあった速水流家元の指導によるものと伝えられています。



臨池亭

土蔵群

長 屋門を潜ると主屋の右手に土蔵群が迫ります。蔵は『商人のお城』とも言われ、南から内蔵・大蔵・書類蔵・新蔵・岡蔵と並び、さらに内蔵の後方には、夜具蔵が配されています。



土蔵群

展示館

第一展示館

製塩の歴史を学ぶことができます。

入浜式塩田、流下式塩田、そして最新の国産技術の粋を集めた膜濃縮法の製塩工程を写真パネル・模型・標本・作業道具・VTRなどでわかりやすく紹介しています。

ポーランド産のトーン半の重さがある円柱の岩塩も見応えがあります。



第二展示館には江戸時代からの貴重な調度品や生活用具を展示しています。例年二・三月には岡山藩主から拝領した享保雛をはじめ、様々な雛人形の展示が特に人気を集めています。

塩づくりの体験館では昔ながらに土鍋で塩を作る体験ができます。（一週間前までにご予約ください。）

配置図

国重要文化財指定建造物			附属指定建造物		
1	長屋門	13	台所	24	塩づくり体験館
2	桃座敷	14	納屋	25	三秀館
3	南座敷	15	便所	26	三秀館蔵
4	内玄関	16	味噌蔵	27	清風館
5	表玄関	17	岡蔵 (展示館)		
6	御成門	18	新蔵		
7	表書院	19	書類蔵		
8	観曙亭	20	大蔵 (展示館)		
9	待合・雪隠	21	内蔵		
10	容膝亭	22	夜具蔵		
11	中座敷	23	向座敷		
12	臨池亭				